

# 車体 NEWS

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

  
2010  
新春増刊号

## 年 頭 挨 拶

社団法人日本自動車車体工業会

会 長 高 木 茂



あけましておめでとうございます。

2010年の新春を迎えるにあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、まさに未曾有の厳しい1年間でありました。「日本経済は回復に向かっている」というニュースは聞きますが、残念ながら当会を取り巻く環境が好転しているという実感はまったく得られておりません。

国内自動車販売は1月～11月累計の登録車全体で269万台（前年比88.2%）と低調で、特に貨物車は24.9万台（前年比66.8%）、うち中大型貨物車は3.7万台（前年比53.8%）と大きく落ち込んでいます。中大型車が5万台以下になるのは1959年以来であり、まさに半世紀振りの異常事態といえます。これに伴い、1月～11月までの当会会員総生産台数は176万台（前年比65.1%）、そのうち委託量産車を除く当会特有車種は8.5万台（前年比58.4%）となっており、会員会社の経営実態はたいへん厳しく、まさに日本の車体産業の技術伝承が途切れる恐れさえあると認識しております。

このような中、当会は「会員への支援活動の充実」「環境対応活動の推進」「安全対応活動の推進」を重点項目として取組み、皆様のご協力でいろいろと成果を上げることができました。

「会員への支援活動の充実」の面では、特に中小企業経営支援を強化し、多岐に渡る公的支援策の展開も、単に情報を流すだけでなく説明会や相談会の実施、事務局内の相談窓口の設置などを大幅に充実できたと考えています。また技術面での支援では、新法規対応や改造届け出に関するいろいろな会員支援に加え、新たに「改造自動車取扱いの解説書」を全面改訂する活動をスタートさせました。1年半にわたる大作業になりますが、最新の技術動向にあった、合理的で、使いや

すい内容に改訂することにより、会員の日常業務に大いに役立つものと思います。情報展開の面では、生産台数情報の内容充実を図りタイムリーな集計、展開ができるようになりました。更に新年からは当会のホームページに会員専用ページもできましたので、一層充実した情報発信が可能になると考えています。

「環境対応活動の推進」では、会員企業のいろいろな削減努力のお陰でCO<sub>2</sub>、VOC、産業廃棄物の削減とも、今年度目標をほぼ達成させることができました。また、環境負荷物質を使わない会員企業の割合も70%以上となり、2011年度目標の80%以上も1年前倒して達成できる見込みが立ちつつあります。

「安全対応活動の推進」では、調査研究活動の7項目や基準書の改訂14件などに取り組んでおり、一部計画に対して遅れている面もありますが、総じては順調に進んでおります。

さて、本年の経済の先行きについては、残念ながらまだまだ不透明な状況であり、国内商用車の需要回復にはかなりの期間を要すると思われ、当面はこの厳しい状況が続くと見込まれています。

このような厳しい中でこそ、われわれは一致団結して難局に立ち向かうことが重要であります。「会員に喜ばれる、頼りにされる会員支援活動」を一層充実させる必要があり、特に当会員の多くを占める中小企業の経営支援策につきまして関係官庁、関係団体とも連携を深め、一層の充実を図っていきたく考えますので、会員各位一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、会員並びに関係各位のますますのご繁栄とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。